

Using PIDs in Publishing 出版におけるPIDの活用

Christina Bennett, PhD
Editorial Director & Publisher
ACS Publications
American Chemical Society

JST/CHORUS Forum at JOSS 2026: How PIDs Can Change Research

ACS Publications

米国化学会（American Chemical Society）の一部門であるACS Publicationsは、学術誌、電子書籍、科学プログラム、およびニュース誌『*Chemical & Engineering News*』を通じて研究者を支援しています。

非営利の学術出版社として、ACS Publicationsは以下のサービスを提供しています：

- 信頼性の高い査読
- あらゆる研究を受け入れる場
- 迅速な出版
- 広範な国際的発信力

STM

国際STM出版協会（STM）は、世界の主要な学術出版社および学術出版エコシステムを支える組織を代表する国際的業界団体です。

- 研究公正
- 社会的責任
- オープンリサーチ
- 標準化およびテクノロジー

著者の検証 — 善良な著者と悪意のある著者の識別

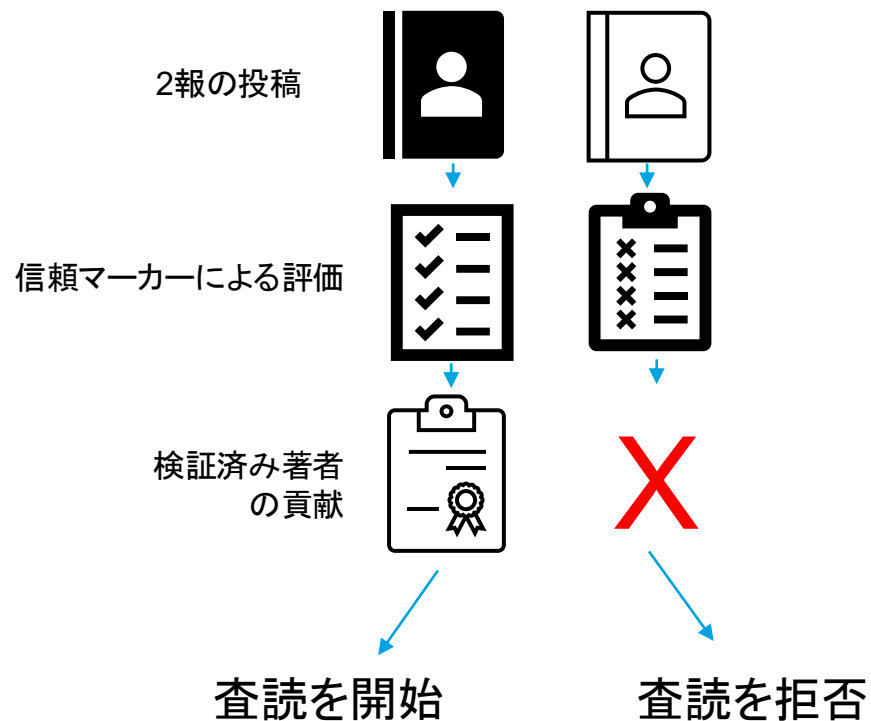


ストック写真: コンピュータ室で作業する著者たち。



ストック写真: 実験室で作業する著者たち。

信頼できる査読には信頼できる著者の本人確認が不可欠



STM

Trusted Identity in Academic Publishing

MARCH 2025

Part 2: The Researcher Identity Verification Framework

Richard Northover, Hylke Koers, Aaron Wood, Adam Sewell, Andy Heard, Helen King, Jacob Kendall-Taylor, Jennifer Wright, Joris van Rossum, Kevin Lawson, Lib Davies, Lucy Loftus, Matthew Salter, Phil Reimann, Ralph Youngen, Sam Parker, Tim Lloyd

Draft for community review

www.stm-assoc.org

学術出版における信頼できる本人確認に関する最新レポートを参照ください - [研究者アイデンティティ - STM協会](#)

信頼のモデリング

- 編集プラットフォームでは、以下の点を確認することで利用者の信頼性を評価できます：
 - ▶ 本人確認に関する証拠
 - ▶ 研究活動に関する根拠

本人確認に関する証拠	研究活動に関する根拠		
	信頼なし	中	高
高	説明責任に基づく信頼 本人確認における確信は十分で説明責任を担保できるが信頼性が不足している	高い信頼 利用者の本人確認に十分な確信があり、かつ研究者としての真正性を裏付ける根拠が一部存在する	最高レベルの信頼 利用者の本人確認および研究者としての真正性の両方に十分な確信がある
中	低い信頼 本人確認に一定の確信はあるが、研究活動の根拠がない	中程度の信頼 利用者の本人確認および真性な研究者であることに一定の確信がある	高い信頼 研究実績の十分な根拠に基づく信頼はあるものの本人確認の証拠が限定的
信頼なし	信頼なし 利用者の本人確認または研究者としての真正性を示す根拠に十分な確信がない	信頼なし 信頼性を示す一定の証拠はあるが、その証拠が特定の個人と確実に紐付けられない	信頼なし 信頼性を示す十分な証拠はあるが、その証拠が特定の個人と確実に紐付けられない

検証方法と信頼レベル

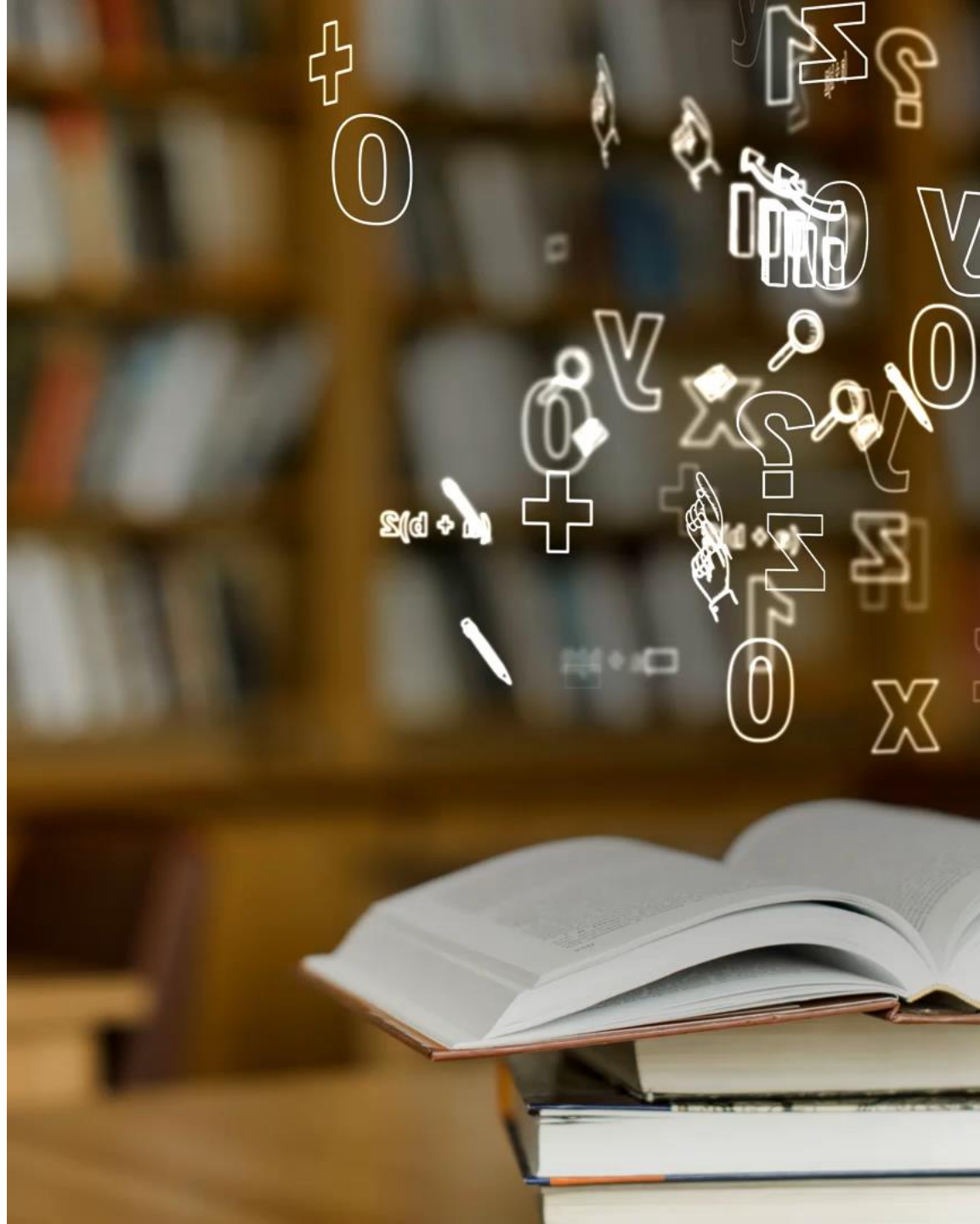
信頼レベル		方法
3	高い信頼	ORCID+信頼マーカ+多要素認証(MFA) 手動確認 バウチング(第三者による保証)
2	中程度の信頼	IDプロバイダ(IdP)+多要素認証(MFA)による機 関所属の確認 ORCID+信頼マーカ
1	基本的な信頼	IDプロバイダ(IdP)またはメールによる機関所属 の確認 書類による確認 支払いカードによる確認
0	不十分な信頼	信頼マーカなしのORCID 不透明なメールアドレス 非機関係のIDプロバイダ

検討事項:

- 手法の利用可能性
- 検証の猶予
- 再検証
- セキュリティ
- 多面的な検証

Task & Finish Groupの提言

- **利用者検証の導入**：投稿・査読システムに検証手順を追加し、必要に応じて代替手段を提供する。
- **検証済みのプロフィール情報の活用**：ORCIDなどのサービスを活用してユーザーの本人確認の確信を高め、検証済みの情報を研究者のプロフィールに反映させることで、好循環を生み出す。
- **連携による改善**：匿名化・集約された情報を共有し、他の編集プラットフォームと協力して、集団的な防御体制を強化し、正当な研究者を支援し、共有基盤によるコスト削減を図る。



課題

- 検証は、正当なユーザーにとって負担となる可能性がある
- 本人確認は、研究者と出版社の関係性に変化をもたらす可能性がある
- 「所属機関の証明」は、悪意のある利用者にとっては障壁にならない可能性がある
- 一部のユーザーは、所属機関以外のメールアドレスやIDの利用を好む
- どのくらいの頻度で本人確認を行う必要があるのか
- セルフサービス型の本人確認ツールはコストが高くなる可能性がある





ACS

Chemistry for Life[®]

AMERICAN CHEMICAL SOCIETY